

マタイの福音書 第6章 9節（抜粋）

「天にいます私たちの父よ。」

今日の空高く一羽の鳥が飛んでいる。普段ベランダの梢にとまり、幼虫をせわしなくついばんでいる鳥とはことなるかもしれない。梢の鳥は休むことなく首を動かし、くちばしで小枝をつついていて、時々仲間をつれて来る。地上に近いだけに、警戒と食事に気をくばり動く。高空に舞う鳥は、なにか堂々としているように見える。地上世界を見渡すことができることからのゆとりだろうか。

何か切なる願いがあったらどうか。弟子たちは師匠の姿を見て、祈りを教えてくださいとお願いする。地上をうごめく慌ただしさ、警戒心からうまれる余裕のなさがあったらどうか。ベランダで首を動かしながら懸命に励んでいる鳥のようなものだ。地上だけを見る限り、慌たしい動きは止められないと思いついでしまう。しかし、弟子たちは、それだけではないことに気付かされた。

祈る教えを請う弟子たちに応えたイエスは祈ります。「天にいます私たちの父よ。」イエスに目を向けた弟子たちを、天に向かわせます。地上にとりつかれ、地上の営みに呑み込まれている弟子たちを天に向かわせます。天に向いて、地を思う祈りに招きます。天に舞う鳥のように、天が支配する地を祈り生きることに向かわせます。